

難波田城だより

2025夏

104号

—難波田城公園・難波田城資料館ニュース— NEWS from NANBATAJO

編集・発行
富士見市立難波田城資料館
令和7年6月1日発行

今号の内容

- “転勤族”生活と城めぐり そして難波田城資料館市民学芸員へ
- みどころ紹介「式台」
- 親子で楽しく草花のしおり作り
- 東上線の貨物輸送
- 夏のイベント予定

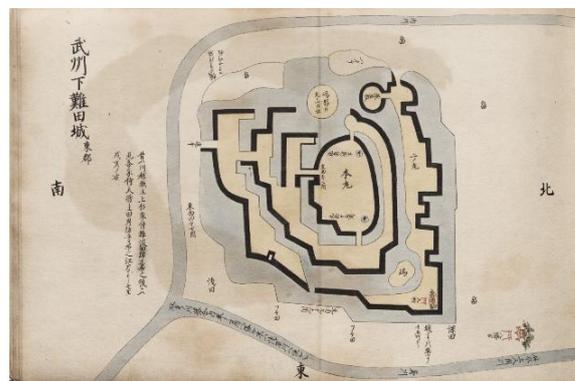
“転勤族”生活と城めぐり そして難波田城資料館市民学芸員へ

市民学芸員 大野 ^{げん}現



しほた
新弁田城跡

Shibata Castle 001 May2020 ©Drph17 クリエイティブ・コモンズ・ライセンス（表示 4.0 国際）【<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/>】



難波田城図『城築規範』（陸奥国弘前津軽家文書）

国文学研究資料館 収蔵歴史アーカイブズデータベース
(<https://archives.nijl.ac.jp/G000000200300/data/02852>)より

私が難波田城資料館の市民学芸員になって早1年が経ちました。

富士見市に住んで約6年になりますが、千葉県野田市で生まれてから現在まで、私は社会人生活の大半をいわゆる“転勤族”として過ごしてきました。居住した都市の数は全国10個所以上になります。

そこには、公益財団法人日本城郭協会が定めた「日本100名城」「続日本100名城」や、それ以外の

城郭もたくさんありました。

主な居住地と、訪れた近隣の城郭は以下のとおりです。（居住県の「日本100名城」は◆印、近隣のそれは※印、「続100名城」は◇印で標記）

これらの城郭や、それ以外で関心があった城を訪問するごとに、城郭についての興味が湧いていきました。そして自分自身のリタイア後の生活を考えていたところ、たまたま富士見市の第9期市民学芸員養成講座の案内に目が留まり、難波田城の歴史はもちろん富士見市の自然・歴史・民俗・文化財等を学び、多くの方々に伝えたいと思い応募しました。

全国には様々な形態、特徴を持った城郭があります。その中で、難波田城は中世の平城で、戦国時代に難波田氏が拠点とした城であり、関東地方で発展した築城技術（馬出し構造の導入、食い違い小口等）も取り入れられています。

富士見市の貴重な文化財であり観光資源であるこの難波田城公園に、多くの方々が訪れ興味を持ってもらえるよう、ボランティアガイドとしてお役に立てたらと思います。

新潟県新潟市	◆新弁田城、◇村上城、◇高田城
広島県広島市	◆広島城、◆郡山城、◆福山城 ※岩国城、※松山城、※今治城
愛知県名古屋市	◆名古屋城、◆犬山城、◆岡崎城 ※岐阜城、※彦根城
石川県金沢市	◆金沢城、◆七尾城
長野県松本市	◆松本城、◆上田城
京都府福知山市	◇福知山城、◆二条城、※竹田城 ※篠山城
静岡県浜松市	◇浜松城、◆掛川城
神奈川県横浜市	◆小田原城
千葉県茂原市	◆佐倉城、◇大多喜城
東京都青梅市	◆八王子城、◇滝山城、◆江戸城
埼玉県富士見市	◆川越城、◆鉢形城、◇忍城

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介

古民家シリーズ② 「式台」

古民家ゾーンで格式ある佇まいが存在感を示している旧大澤家住宅。大澤家は江戸時代に大久保村の名主を代々務めており、「式台」といわれる玄関は、名主の住まいの特徴を表すものです。「式台」の壁は漆喰壁に灰墨を混ぜて黒くされており、屋根に設置された威風堂々たる鬼瓦とともにその格式をあげたものになっています。

本来「式台」とは、武家の屋敷で座敷への入口にある一段低くなつた板敷の部分指し、来客が籠籠から出る際、地面に降りず出入りできるようにしたものでした。時代を経ると村役層の間でも役人(武士)の出入口用に、幕末には富裕な民家でも作られるようになります。

この建物は明治四年(一八七二)に建てられています。この年の半ばには廃藩置県があり、それ以前にはこの式台で川越藩の役人をお迎えしたかもしれません。その後は大切なお客様用だったといえます。

実際、大澤家でこの式台玄関は、奥座敷と共に特別な来客の際以外に使われることは少なかったそうです。(小林 茂雄)

(写真 上 旧大澤家住宅遠景 中式台遠景 下 式台近景)



体験に参加しようかと、イベント情報のチラシを見て相談をしていました。

ちよっと体験は、わりあい簡単なものが多いので、小さいお子さんも参加できます。

そのためか今回もリピーターの方が多く、市外の方もいらっしやっていました。(園原 幸子)

おもしろ・なつかし体験 [81]

親子で楽しく
草花のしおり作り

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

4月20日(日)のちよっと体験は「草花のしおり作り」でした。

事前に準備しておいた押し花を使い、しおりを作っていきます。

参加者の方には、好きな色の台紙と、モールの紐を選んでいただき、次に花を選んでもらいます。

いろいろな花や草を押し花にしたものは20種類以上、桜、梅、紫だいこんなどのカラフルな色や形に、選ぶ方も迷ってしまいます。

この日は、お父さん、お母さん、お子さん連れが多く、皆さん一緒に楽しそうに作っていました。

だいたいの位置を決めて、少しのボンドで仮止めし、透明のシールを貼り、紐つけて完成します。

みなさん綺麗な仕上がりに満足そうでした。

また、しおりを作りながら、多くの方が次は何の



自然の色豊かなしおり。あなたも作ってみませんか？

人の創ったもの★人の使ったもの

東上線の貨物輸送

6月8日(日)まで開催中の令和7年春季企画展「東上線開通110年」では、大正3年(1914)5月1日に東上鉄道(現・東武東上線)と鶴瀬駅が開業してから110年におよぶ東上線と地域の変化を、文字資料や写真資料を中心に紹介しています。ここでは、かつて東上線で行われていた貨物輸送の歩みを簡単に振り返りたいと思います。

舟運から鉄道輸送へ

江戸時代に整えられた新河岸川舟運は、江戸東京とこの地域を結ぶ主要な輸送手段でした。新河岸川を下って江戸東京に出荷された物(下り荷)は、米、雑穀、さつまいも、板材、杉皮、炭、マキ、枝などでした。一方、川を遡って江戸東京から運ばれてきた物(上り荷)は、瀬戸物、あらもの荒物、油、砂糖、塩、酢、むしろ蕨、ゆな糠、ほしか干鰯などでした。

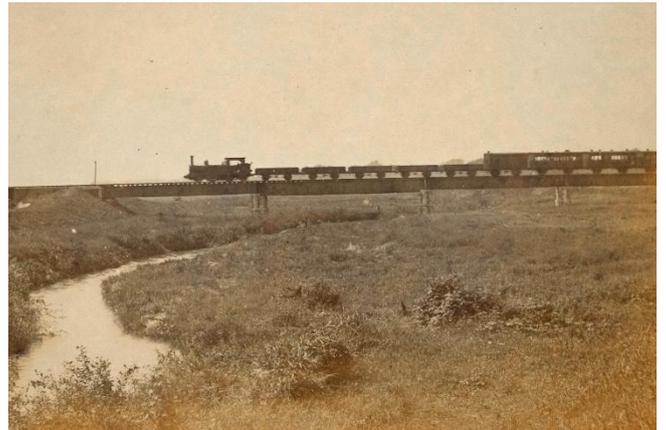
こうした荷物の輸送は、明治時代後半から大正時代にかけて舟運から鉄道に移りました。『東上鉄道案内』(大正4年[1915])には「入間郡や北足立郡の生産地と京浜地方を結ぶ点で東上鉄道と新河岸川舟運は競合関係にあり、川船の利便性は鉄道の利便性に遠く及ばない」とあります。東上鉄道は貨車と客車を併結して運行しました。旅客収入6に対して貨物収入が4の割合で、貨物は重要な収入源でした。

貨物輸送の電化

大正時代後期に郊外の都市化が進むと、通勤・通学客に対応する大量・高速輸送が可能な電車の運転が求められました。昭和4年(1929)10月1日に池袋～川越市間、12月29日に川越市～寄居間の工事が完了し、東上線全線が電化されました。

電化により電車の運行が開始されましたが、貨物輸送には蒸気機関車が引き続き使用されました。しかし、蒸気機関車による輸送は原価が大きいため、電気機関車へ切り替えて経費節減を図ることが計画されました。東武鉄道の貨物全線電化計画は昭和33年(1958)から実行に移されました。貨物の操車場の電化工事、電気機関車の新造などが行われ、東上線では昭和34年4月1日に貨物電化が完成しました。この時、東上線から蒸気機関車が姿を消しました。

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介いたします。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。



柳瀬川を渡る東上鉄道の列車(部分) 蒸気機関車が貨車と客車を引いている。(林三喜家文書)



東武東上線 EL サヨナラ記念乗車券 昭和61年(1986)10月、東上線におけるEL(電気機関車)の運転終了(=貨物輸送の終了)を記念して発行された。(小森和雄氏所蔵)

貨物輸送の終焉

貨物電化計画が進められている昭和36年に貨物の年間輸送量のピークを迎えましたが、その後減少傾向となりました。背景には、トラックの生産台数の急増・性能向上・大型化、道路整備の進展などトラック輸送の発達がありました。

東武鉄道は、貨物取扱駅の統合・廃止、貨物列車の一部廃止などの対策を行いました。年を追うごとに貨物業務が縮小されていきました。そして、昭和61年(1986)10月21日、東上線の貨物輸送が全廃されました。(山野 健一)

＊＊夏のイベント予定＊＊

掲載したイベントは、感染症の影響などで中止・変更となる場合があります。

●じゃがいも掘り

とき／6月15日(日)①午前10時、②午前11時
 (各1時間程度)※悪天候時は翌週に延期
 集合場所／旧金子家住宅前(畑は公園の隣です)
 定員／各16組(申込順) 参加費／1組1500円
 主催／難波田城公園活用推進協議会
 申込み／6月3日(火)午前9時から電話で

●竹かご教室

「六ツ目編み^{なみかご}波縁カゴ」を作ります。
 とき／7月6日(日)午前9時30分～午後4時
 会場／講座室 対象／中学生以上
 定員／10人(申込順、応募多数時は初参加優先)
 参加費／1000円 指導／資料館友の会竹かご部会
 申込み／6月4日(水)午前9時から電話で

●糸つむぎ(糸車)体験

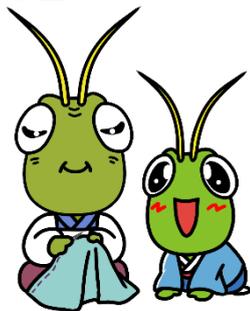
とき／7月24日(木)、31日(木)、8月21日(木)
 午前10時～正午、午後1時～3時(体験は5～10分程度)
 会場／講座室 指導／資料館友の会木綿部会

●ふるさと体験「藍の生葉染め」

藍の葉で絹のストールを染めます。
 とき／7月26日(土)午前9時30分～正午
 ※雨天の場合は8月3日(日)に延期
 集合場所／旧金子家住宅 材料代／2000円
 定員／10人(申込順、初参加優先)
 指導／藍染めの会
 申込み／7月2日(水)～10日(木)に電話で

●子ども裁縫教室

とき／8月6日(水)午前10時～午後2時
 会場／講座室 対象／小学生～中学生
 定員／12人(申込み順)
 参加費／300円(材料代)
 作品／①きんちゃく袋 ②ショルダー
 バッグ ③ポケットバッグ ④ペンケース
 からいづれかを選択
 指導／美楽の会
 申込み／7月19日(土)までに
 電話で



●夏休み古民家宿泊体験

古民家に泊まって、昔の暮らしを体験しよう！
 とき／8月9日(土)午後1時～10日(日)午後2時
 内容／工作、食事作り、ごえもん風呂など
 対象／市内在住・在学の小学4～6年生
 参加費／2500円(材料費・食費)
 申込み／往復はがきにて
 ※詳しくは広報「富士見」7月号をご覧ください。

●ハンカチの藍染め

とき／8月17日(日)午後1時～3時
 (体験は10分程度) ※申込み不要
 対象／子ども～大人 会場／講座室
 材料代／100円 協力／藍染めの会

●早朝の蓮を見学できます

6月14日(土)、21日(土)、28日(土)、7月5日(土)は、午前6時30分に開園します。開花状況はお問い合わせください。資料館や古民家は通常どおり午前9時開館です。

●ちよっ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

6月15日(日)ふかしいも(じゃがいも)
 7月27日(日)流しそうめん
 8月はお休みです。
 ※11時から。売り切れ次第終了

田舎まんじゅう販売 第1・3日曜日 10:30～

●難波田城の御城印ができました！

6月1日(日)午前10時より販売します(価格300円)。
 ご来園の記念などに是非どうぞ。
 ※1日(日)公園まつり時は特設コーナーで、それ以降は園内売店「ちよっ蔵」、資料館窓口で取扱います。



お知らせ

「難波田城だより」のバックナンバー(カラー版)はこちらから

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/nanbatajo-dayori.html



富士見市立難波田城資料館
 〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

Tel. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryoukan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時
 ◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト